

令和6年度 第1回 西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会要点記録

■日 時：令和6年5月21日（火）18時00分～
■会 場：オンライン（Zoom）

○令和6年度 西東京市社会福祉協議会 事務局体制について

1. 委 嘱 状 交 付

- (1) 委嘱状交付（事前送付）
- (2) 委員紹介（資料1）

2. 報 告 事 項

- (1) 業務報告（令和5年3月・4月）について（資料2、3、4）
- (2) 業務予定（令和6年5月・6月）について（資料5）
- (3) 令和5年度西東京ボランティア・市民活動センター事業報告、決算報告（資料6、7）
- (4) 令和6年度西東京ボランティア・市民活動センター事業計画・事業予算・年間予定について（資料8～10）
○事務局より、(1)～(4)について資料を用い説明を行った。
【委員長】多くの事業を行ってきたのが分かる。

3. 審 議 事 項

- (1) 令和5年度第4回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会要点記録（未定稿）について（資料11）

4. 協 議 事 項

- (1) 夏！体験ボランティアについて（資料12）
【事務局】ひとつの例として、前回の委員会で学生をターゲットとした学校との連携について取り上げた。
ボランティアセンターとして大切な取り組みなので進めていきたい。長年やって来た「夏！体験ボランティア」（以下夏ボラ）をさらに充実させていく中で学校との連携を考えていく機会にははどうかという意見をもらった。まずは資料の説明を行いたい。
○昨年の結果を基に説明を行った。
【委員長】昨年のアンケートで「大変良かった。」という意見もあり、夏ボラが単なるマンパワーではなく、子どもたちにとって、気づきや学びになり学校にフィードバックして学校との連携につながると良い。
前回の委員会の振り返りも交え意見をいただきたい。
【副委員長】夏ボラが単発のエピソードボランティアで、夏が終わると切れてしまうのはアンケートにもあったように「ボランティアを続けたい。」という多くの体験者の声と、受け入れ施設からの「来てても良い。」という両方のニーズが繋がっていないというのはもったいない。そこを有機的につなげるのがコーディネーターの役割である。今後学校との連携が太くなっていくことを期待したい。
組織同士の連携は大きなことだが夏ボラは小・中学生の子ども達が自分の意志でボランティア

に参加するボトムアップの流れで、地域の団体の人たちや施設、社協などが組織化されていく中で学校との連携を考えていくと、既に子どもたちは地域の人たちと関係ができて活動している。学校では教員がプログラムを出さなくても生徒がやりたいと思うことを拾い上げ、校内で応用していくことが小・中・高・大学の横展開がしやすいのではないかと。今年 1 年で組織化するのは難しいが積み重ねによって関係が太くなっていけば良いのではないかと。また、「大人の参加がありドキッとした。」という意見があったが夏ボラは学生向けというテイストに受け取られているが、一般の方も参加対象になっているのであれば受け入れ側に伝えた方がよい。そして、この夏ボラの目的である、ボランティア活動を通して様々な人との出会いの中から、多様な価値観と共に生きていくことの意味を考える機会として提供。まちづくりへ主体的、積極的に参加していく。という大きな目的があった。受け入れ団体としてこの目的に対し何が提供できたのか、参加者はこの目的に意識が向けられたのか、何か得られたのかなど、アンケートに項目があるとどれだけ達成できたか未達だったかなど、次のヒントも得られるのではないかと。事業としての狙いが達成できたか否か、課題、成果はどうだったのか、抽出できる仕組みを作ると貴重な意見を有効に活用できるのではないかと。

【事務局】ご指摘いただいた通り今年度のアンケートに加えていきたい。

【委員】若者や個人のアンケートの内容を見て素晴らしいと感じた。一方で夏ボラのチラシを配ることで学校との連携ととらえると違うのではないかと。個人との連携にはなっているが学校とはなっていない。なぜなら夏休みだからである。夏ボラは大変価値がある。このボランティア体験を学期中に行うのはどうか。今年度、市内の全校で地域学校協働活動（コミュニティスクール）に移行した。しかし各校ともどのような内容で活動していくか模索しているところである。このようなボランティア体験があるということを知ると学校は喜ぶのではないかと。本校は昨年度と今年度 25 の事業所に協力してもらい商店街などで職場体験を行った。子どもたちはキャリア教育の学びで得るものが多かった。地域活性化というプロジェクトを行い子どもたちはよく考え、市長に対し提言していった。発達障がいの子どもも一定数いるがその子供たちは農業を選び活動をした。様々な形のボランティアを体験することができたのではないかと。ボランティア体験が夏休み限定で行うのであれば周知が必要ではないかと考える。市の後援を得たのであれば毎月行っている定例校長会でチラシだけではなく、アンケート結果や資料なども持参し全校に渡すことが大事ではないかと。学期中のボランティア体験の実施と周知することの2点を考えてはどうか。

【事務局】学期中については受け入れ側に聞く必要があるためすぐに返答はできないが校長会での周知では委員に協力を願いたい。

【委員長】コミュニティスクールとの連携を行うためにも周知に力を入れて欲しい。
アンケートにもあった証明書の発行について事務局の考えを聞きたい。

【事務局】今まで積極的に発行してこなかったが、証明書を取得するための参加であっても実際に参加したことにより様々な気づきがあったという声も聞いている。

【委員長】前回理事から受け入れ側にとっても感謝の気持ちを伝えるのに良いのではないかと、との意見も出ていた。

【理事】人の役に立ったということが形になり、後に思い出すこともできる。

【委員長】学校で夏休み明けに校長先生から子どもたちに労いの言葉と参加証明書を渡してもらったことがある。学校とのつながりについても証明書を発行することによって、夏休みに子どもたちがボランティアを体験し気づきや学びがあったということが分かれば応援してくれるのではないかと。高齢者施設はどうか。

【委員】後ろ向きな意見になってしまうが、そこに人手を割かなくてはならない。常に人手不足の現場としては辛い部分もあるが、話を聞いて子どもたちの成長や受け入れ側としても学ぶことがあ

るのなら受け入れを検討していきたい。

【委員長】保育園はどうか。

【委員】一昨年は多数の参加があったが昨年は無かった。今年は是非来てもらいたい。夏ボラ終了後も継続して受け入れでできればと思っている。人手不足の面では担当者も保育の現場に入っているため対応が難しい。職員みんなで協力しながら受け入れでできればと思う。

【委員長】ボランティアを受け入れるということは、人手が必要になるということなのか。マンパワーとしては助かる面もあるし、参加者にとっても将来の職業につながるような気づきや学びになる。改めて保育士の大変さが分かったという意見もあった。

【委員】子どもたちの育ちはすごいと感じてもらいながら保育という職業に興味を持ってもらえると良い。

【委員長】保育の現場でも保育士が足りないという問題もある。未来を背負う子どもたちが実際に体験をして保育士を目指して欲しい。

レスキューバードはどうか。

【委員】昨年は小・中学生 5 名の参加者があった。事前学習とイベント内で防災クッキングを行った。今年は大きなイベントも無いため受け入れはしない。防災関係は夏の暑い時期はイベントが無いのが悩みの種で残念である。

【委員長】子どもたちの成果として、自分たちが学んだことを次に来たボランティアに伝えていくということなことは考えているのか。

【委員】以前親子で参加していた高校生が大学生になり本格的に防災を学びたいとグループに入ってくれた。若いうちに関わっていると入りやすいのではないかな。チャンスを作ってあげる試みは必要だと考える。

【委員長】単発で終わるのではなく継続的に未来につなぐ形ということか。
障がい者施設はどうか。

【委員】以前は受け入れていたが、昨年度は体制が整わず参加できなかった。今年度は受け入れを行う。障がい分野でボランティアの存在はとても貴重で、子どもや高齢者と関わる経験は家族の中であるが、障がい者とはどのように接したら良いのかわからないという意見がある。障がい者を困らせてしまうのではないかなど不安を抱えながらもチャレンジすることができる。以前話したが、独自に参加者にサンクスカードを渡している。ボランティアに入ってくれたことで、こんなところで助かったということを可視化して伝えている。職員がメインで助かった場面を書いている。障がい分野に興味を持ってもらうことと、単発にならずに楽しかった経験を活かし人材不足の解消につなげたい。

【委員長】何人の参加があったか。

【委員】数年前に 2 名ほどだった。障がい者にかかわった経験のある学生が多かった。

【委員長】社会福祉に関わる学生だったのか。受け入れの対象は中学生以上か。

【委員】そういう方もいた。当時は高校生以上を対象にしていた。利用者の情報をどこまで参加者が扱えるかを考えた時に高校生以上とした。

【委員】高校生のボランティアの活動時間を聞きたい。

【委員】半日の活動としている。

【委員長】受け入れ側のアンケートの中に他団体、施設ではどのように行っているのか、悩みは何かなどあるが、情報交換の場はボラセンで用意しているのか。

【事務局】かなり前になるが参加者説明会と団体説明会を行っていたが今は行っていない。何らかの形で情報提供できるよう考えていきたい。

【委員長】感想を読んで説明会と終了後の情報交換会はあったと良いと感じた。

【副委員長】夏ボラのオリエンテーションは事前にボラセンが行うのか、各施設が行うのか知りたい。

- 【事務局】先ほど出た説明会と同様に以前は行っていた。ボラセンのマンパワー不足により受け入れ側をお願いしている。ボラセンからは紙ベースのものを渡している。
- 【副委員長】この質問の意図としては、障がい者施設の委員の言葉にあったようにハードルが高いと自分のイメージに近いところのボランティアを選び、想定外のところは遠慮してしまう。ハードルを下げる仕掛けが必要ではないか。行ってみたら自分でもやれるところがある、または何もできなかったという自己評価かもしれないが、体験したことに意味があり、自分にとっての成果が得られるのではないか。長期的に見た時、その業界に興味を持ち働いてみたいと思えるように裾野が広がると良い。ハードルを下げ魅力を伝えられなければ、高齢者施設や保育園などに流れてしまう。例えば夏ボラの初回を保育園で体験し参加証明書を受け取り、次は分野を変えて高齢者施設や障がい者施設に行ってみようという興味を持てるつながりができると良い。
- 【理事】知的障がいの理解は難しいと思う。知る機会がなかったり、障がい者が身近にいないことなどがある。そのハードルをどのように下げるか一つ考えたのは、昨年度ボランティア懇談会のスキルアップ講座で「視覚障がい者を支援するために知っておきたい知識」をボラセンが行った。「知的障がい者を支援するために知っておきたい知識」として親の会のキャラバン隊で啓発活動を行っている。知的障がい、発達障がいを知ってもらえるワークショップもあるので呼んでもらいたい。
- 【委員長】発達障がいの子がボランティアをしたいと応募してきた時に、受け入れ側もどのように対応したら良いか配慮の面でも知っておくのも大切なことではないか。今までトラブルなどなかったのか。
- 【事務局】あった。保育園に行った子どもに発達障がいがあるのではないかと先生から問われた。指示が通りにくかったりお願いしたことが守られなかったりした。一般のプログラムがこなせない為、出来そうなことを急遽用意してくれた。理事の話は大変ありがたい。ぜひお願いしたい。
- 【委員長】小学生は面白そうな興味のある物に参加する。中・高校生はボランティアをすることによる加点や証明書を欲しかったり、大学生は将来の職業に結び付くための参加など色々な人たちがいる。受け入れ側も心構えが必要であると感じた。マンパワーとして受け入れるだけではなく、生きがいが見いだせるような口添えなどが与えられると良い。参加証明書は受け入れ側に任せると思うがボラセンとしてはどうか。
- 【事務局】参加証明書については発行する。発行することにより参加者の傾向がどう変わるのか興味がある。
- 【委員長】教育委員会の後援も取れているが学校へチラシの一斉配布は行うのか。
- 【事務局】行う。配布枚数は検討中である。
- 【委員長】全教職員に知ってもらうことは重要である。参加証などを夏休み明けに先生が読み上げてくれることにより小・中学生の参加につながっていくのではないか。
- 【副委員長】参加証明書の交付申請書について聞きたい。活動内容はボラセンが記入するのか参加者が記入するのか。また、参加証明書の文面が堅いイメージがある。大学生は良いが小学生には「証明します。」というよりロゴが入った「ありがとう。これからもよろしく。」というようなものが良いのではないか。
- 【事務局】交付申請書は申込時に対面で書いてもらい参加証明書に転記する。この証明書を作る時の対象が中・高生だった。委員の話を聞き小学生には「ありがとう」が伝わるものも考えていきたい。

(2) 意見交換

5. そ の 他

(1) 令和6年度西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会開催日程について（資料13）

次回運営委員会開催日程について

■日時:令和6年 9 月 10 日(火) 18 時 00 分～ 時 分

■会場:

(2). そ の 他

配布資料

ページ

- 資料 1 : 運営委員名簿
- 資料 2 : 西東京ボランティア・市民活動センター事業月次報告(令和6年3～4月)
- 資料 3 : コーディネート状況等月次報告(令和6年2～3月)
- 資料 4 : ボランティアコーディネート実績表(令和6年2～3月)
- 資料 5 : 西東京ボランティア・市民活動センター業務予定(令和6年5～6月)
- 資料 6 : 西東京ボランティア・市民活動センター 令和5年度事業報告(案)
- 資料 7 : 西東京ボランティア・市民活動センター 令和5年度決算報告(案)
- 資料 8 : 西東京ボランティア・市民活動センター 令和6年度事業計画
- 資料 9 : 令和5年度ボランティア・市民活動推進事業 事業予算
- 資料10 : 西東京ボランティア・市民活動センター令和6年度 年間スケジュール
- 資料11 : 令和5年度第4回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会
要点記録(未定稿)
- 資料12 : 夏体験ボランティアについて
- 資料13 : 令和6年度西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会開催日程

参考 : ばらんていあ倶楽部 第126号